

九州豪雨

ニーズ踏まえ物資搬入

総社市 AMDA など 合同チーム報告会

九州豪雨で甚大な被害を受けた福岡県朝倉市で支援活動をした総社市と国際医療ボランティアAMDAなどの合同チームは同市に戻り、10日、市役所で活動報告会を開いた。(27面関連)

チームは6日正午に出発。朝倉市側と協議した上で、7日朝から被害の大きかった杷木地区の避難所・杷木中学校を中心に数力所を回り、8日まで活動した。8日には第2陣が活動に加わった。



福岡県朝倉市での活動報告をする合同チームのメンバー(左側)

避難所の暑さ対策も必要」とし、「避難の長期化も予想される。要請があれば、いつでも

支援に出発できる態勢を整えている」と述べた。

現地のニーズを踏まえ、段ボール箱を組み合わせてつくる段ボールベッド30セットや、飲料水のペットボトル(500ミリ入り)2

400本などを第2陣が総社市から持ち込み、移動式クーラーや扇風機を福岡市内などで購入して届けた。

チームには、総社市環境観光大使の登山家野口健さん(43)らも参加した。(古川和宏)

チームは計11人で、うち総社市職員とAMDA調整員の8人が報告した。同市職員赤星敬太さん(46)は「現地では生活用水が不足している。